

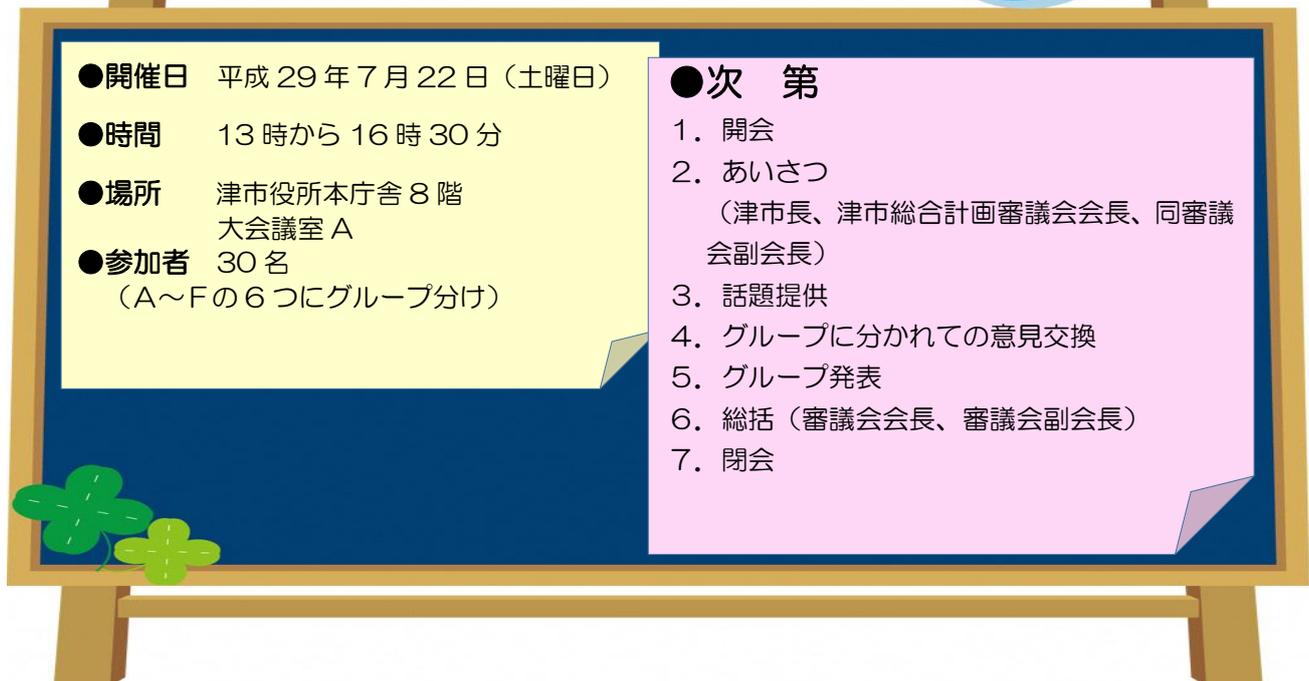
「津のまち未来カフェ」の開催報告

◆開催の目的

平成30年度からのまちづくりの基本指針となる新しい総合計画は、少子高齢化を伴う人口減少が進展し、市町村合併による特別な財政措置が終了するなど、いわば『右肩下がり』の厳しい時代を迎えたなかでのスタートとなります。

そこで、そのような厳しい時代にあっても、『これからも大切だ』『そういう時代だからこそすべきだ』と思うようなことについて、意見交換していただくことを目的に開催しました。

◆開催概要



<ul style="list-style-type: none"> ●開催日 平成29年7月22日（土曜日） ●時間 13時から16時30分 ●場所 津市役所本庁舎8階 大会議室A ●参加者 30名 （A～Fの6つにグループ分け） 	<h3>●次第</h3> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. あいさつ （津市長、津市総合計画審議会会長、同審議会副会長） 3. 話題提供 4. グループに分かれての意見交換 5. グループ発表 6. 総括（審議会会長、審議会副会長） 7. 閉会
--	--

◆話題提供 ※意見交換に向けて、津市を取り巻く環境や新しい総合計画の概要を参加者に説明

<総合計画とは>

◆総合計画とは、市民と行政が共にまちづくりを進めるためにめざすべき都市像やその実現に向けた取組の方向性を示すものとして策定するものです。



<合併後のまちづくり>

◆津波避難ビルの指定や小中学校の大規模改造、4大プロジェクトなどに取り組み、愛着度や定住意向、市政に対する満足度は上昇してきました。

<これからの津市を取り巻く環境>

◆これからの津市を取り巻く環境は、少子高齢化を伴う人口減少の進展、老朽化した公共施設への対応、社会福祉関係経費の増加、市町村合併による特別な財政措置の終了など、一層厳しさが増していきます。

<次期総合計画の概要について>

◆【基本構想】理想の都市像を「市民がそれぞれの幸せを実感し、心豊かで笑顔あふれる人生を送ることができるまち」とし、その実現を図る6つのまちづくりの大綱を示しています。

◆【第2次基本計画】今後の10年間で描くまちの将来像を「笑顔があふれ幸せに暮らせる県都 津市」とし、6つの目標ごとにまちづくりの大きな方向性について示しています。

◆グループに分かれての意見交換

第1ラウンド 思いついたことを出し合ひましょう

はじめに、グループ内で自己紹介をしました。その後、「これからのまちづくりに必要だと思うこと」を話し合いながら、模造紙に書き出しました。

話し合いながら、模造紙に意見を書き出し（黒字）

ホスト

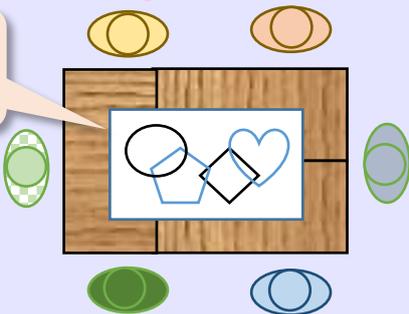
ファシリテーター

ホスト役を残して
他のテーブルに移動

第2ラウンド 視点を混ぜ合わせましょう

先ほどと同じテーマについて、新しいメンバーで視点を混ぜ合わせ、さらに思いついたことを出し合ひました。

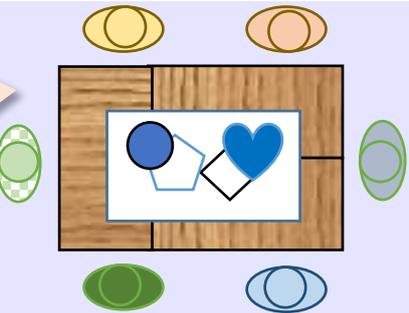
意見の追加等
（水色字）



第3ラウンド あなたが優先したいこと、 重要だと思うこと

「これからのまちづくりに必要だと思うこと」の中から、特に優先すべきことや重要だと思うことを話し合ひました。

出し合った意見の中で、特に自分が優先したいと思うことなどを強調（青枠）



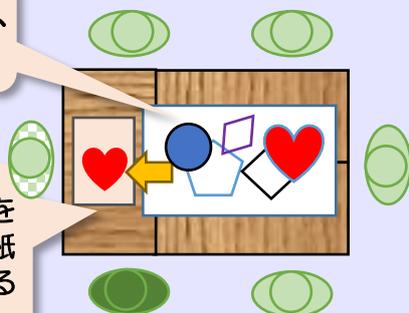
はじめのテーブル
に戻る

第4ラウンド 共に創りあげる津市の未来

それぞれが第2～3ラウンドの中で得た新たな視点や気づきを共有します。これらを踏まえて意見をまとめ、「これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと」を発表用紙に書き込みました。

意見の追記（紫字）や、整理（赤枠）

テーブルの意見をまとめて、発表用紙に「最も力を入れるべきこと」を記入



まとめ（グループごとに発表）

グループでまとめた「これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと」を発表しました。

意見交換会の概要

※いただいたご意見については、要点をまとめ、表現を一部変更しています。

※黒色の文字は第1ラウンドで出された意見。水色の文字は第2ラウンドで追加された意見。青色の枠で囲まれた意見は、第3ラウンドで優先すべきとされた意見。紫色の文字は第4ラウンドで追加された意見。赤色の枠で囲まれた意見は、第4ラウンドで最終的に優先すべきとされた意見。

A班

【これからのまちづくりに必要だと思うこと】

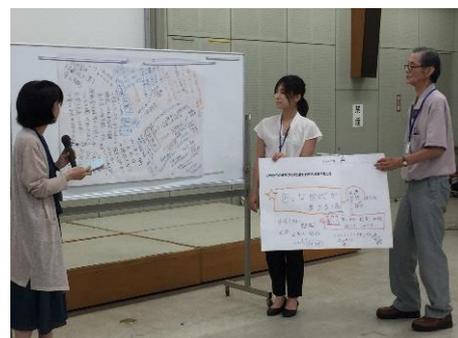
- 市民が集える「空間」が必要（「箱物」はいらない） 中身は市民が個々でつくる
- 医療、商業、住居の機能があるビル ○小さいスペースの活用
- 全天候型運動施設 ○夜に遊べる場所
- 建物を作る前に、事業内容や収益を考える ○駅前をもっと雑多に
- 楽しく買い物や飲食ができる場
- 若者を津に残す ○津の将来がかかっている若者（高校生）を大切にする
- 民間の参画などによる公民連携 ○PRをうまく
- 文化や歴史の活用 ○人集め ○核となるものをつくる
- 津市が三重県の中心だという意識を持つ
- 厳しい財政と人口減少高齢化の中なので、行政はバックアップに徹する
- 人口減少でも豊かに暮らせるまちづくり ○北欧のような高水準の福祉
- 「住みよい」+「あそべる場」 ○意見を反映する場を知らせる情報発信
- 子育てのしやすい環境づくり ○住みやすい津市の実現

【これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと】

色々な世代が集まる場

～楽しく「買い物、飲食、勉強、遊ぶ、喋る」快適空間～

【要旨】市内に人が集う核となる場所を作る。行政主導ではなく、民間を行政がバックアップする形で作られるのが理想。若者から高齢者まで誰もが、買い物をしたり遊んだりして快適に過ごせるような空間を創造する。



B班

【これからのまちづくりに必要なこと】

- 子育て支援の充実
- 子どもたちが遊べる場所づくり
- 高齢者の活躍の場づくりとして子育て支援と結びつける
- 企業との連携
- 地域コミュニティの振興
- 庁舎の活用
- クラウドファンディングによる資金調達
- 健康づくり（1日1万歩運動）
- 職場の結婚へのサポート
- これが「津」という場所づくり
- 安全・安心な道づくり
- 国道23号以外の場所のにぎわい
- 三重大と行政の連携
- 市外からの流入の促進
- 全市の清掃活動
- 住みやすさ（静か、程よい人の多さ）
- 地域への愛着
- 学生主体の取組
- 駅前・駅ビルの充実
- 学生の自習の場
- 地域の活動の場
- 商業の振興
- 大門商店街と津駅前の連携
- 介護、医療費削減の取組み（予防から取り組む）
- 良好な景観の形成
- 全天候型運動施設
- 都市機能を地区単位で発揮する（例：文教都市）
- 心に余裕があるまち

【これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと】

子育て支援 ⇒ 地域への愛着

【要旨】地域のつながりを強化してコミュニティで子育てできるような環境を作ることや企業と行政が連携して子育てしやすい職場環境を作ることが大切。また、子育て支援と高齢者の活躍の場づくりを結び付けたり、余っている公共施設を活用して子どもの遊び場を作ったりして、子育てしやすいまちにする。



C班

【これからのまちづくりで必要なこと】

- いつまでもみんな仲良く生きる ○誰もが働きやすい環境づくり
- 高齢者が生きがいをもてるまちづくり（働く、趣味、スポーツ）
- 第2、第3のおじいちゃん、おばあちゃんの活躍 ○おせっかいをする
- 各年齢や個人差に応じた社会の受け入れ体制 ○高齢者雇用
- 高齢者の活躍の場としての託児所 ○子育てしやすいまち（若者を地元へ）
- 津市の良いところ、制度をもっと知ってもらう（見える化・PR）
- 知恵とか得意なことを生かせるまちづくり
- 認知症サポーター ○祭りの時の託児
- 認知症でもそうでない人も住みやすいまちづくり ○公共交通機関
- 都心部に近いことの強みを活かす（名古屋、大阪）
- 商店街の空き店舗利用 ○商店街が地域の見守り役として活躍する
- 地産地消 ○津観音を活用した行事を増やす
- 安全な道の整備 ○三重の中心としての意識改革

【これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと】

高齢者×こども = おせっかい

【要旨】高齢者が第2・第3のおじいちゃん・おばあちゃんとして託児所で子どもの世話をする仕組みを作り、安心して子育て出来る環境があるということを市内・市外に発信する。預かる子どもの範囲は赤ちゃんから中学生まで切れ目なく設定し、幅広い繋がりを生み出す。



D班

【これからのまちづくりで必要なこと】

- 楽しく子育てできるまち（勉強・生きる力を持った子どもに育つまち）
- 新都心軸を活かしたまちづくり（城跡、商店街、なぎさまち、津！C付近の活性化）
 - サオリーナを活用したまちづくり
 - 津駅を核に！
- 津駅の玄関口化（アスト津に展望レストラン、学生が集えるスペース）
- 「津」ならではの場所
 - 外に出る機会を増やす
 - 市民が集える空間
- 車が無くても困らないようにする
 - 外から来てでも住みたいまちにする
- 子どもを遊ばせる場所
 - 観光施策の推進・PR
 - まちの核
- 子ども、お年寄りなどが集える場所づくり
- 公共交通が便利で分かりやすいまち
- 住民参加のまちづくり（企画・計画・管理を住民が行い、資金計画は行政）
- 拠点毎に現状把握を行い、指標を作る
 - にぎわい・活性化・誇り
- 認知症の人もそうでない人も住みやすいまちにする
 - 商店街が担う見守り
- 介護に携わる方々の居場所づくり
 - 認知症マップの作成

【これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと】

新都心軸を活かしたまちづくり

【要旨】サオリーナに商業施設を併設するなど、新都心軸を活かし、たくさんの方が訪れるまちづくりを行う。津駅周辺や津城跡、津観音などを核として、住民参加でまちを活性化する。



E 班

【これからのまちづくりで必要なこと】

○学生・若者を残す

○若者への予算

○若者が活躍できるまちづくり

○三重県で働いてもらうための施策（学生に地元企業を見てまわらせる）

○官庁が多く、転勤族が多いため、末永く住むためにはコミュニティが必要

○商店街の空き家・空き店舗対策には駐車場

○主要な施設を近づける

○市民、行政、企業による対話のまちづくり

○持続可能であること

○まち中に公園をつくる

○市民による緑化

○幼老連携による見守り

○乗合タクシー・コミュニティバスの充実

○まちなかの駅と駅をつなぐレンタサイクル

○観光のまちづくり

○観光資源の見せ方

○駅前の活性化

○南北軸の交通は優れているが、通り抜けされているので、立ち止まるようなまちの魅力発信

○城というシンボルを核とする

○津城のVR／AR（ITを活用した観光ガイド）

○健康をテーマとした森林セラピーなどで林業を盛り上げる

【これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと】

観光のまちづくり

【要旨】良いところはたくさんあるが、PRが不足している。空き店舗や空き地の有効活用を図り、中心市街地や津駅前を活性化するとともに、津城を復元するなど、核となるシンボル性のある個性を選択し、まちづくりを行う。



F 班

【これからのまちづくりで必要なこと】

- 住民参加・協働のまちづくり
- 子育てしやすい環境（公園や補助制度など）
- 行政は住民に委ねる（計画・管理は住民で費用は行政が負担する）
- 市役所だけでなく地区単位で行う住民協働のまちづくり
- 市民意識の醸成
- 目に見えない大切なものを大事に（コミュニティ）

○コミュニティの場

- 全ての支援を二重・三重にする

○歳入・歳出のバランスを考えた施策

- 自然や情景を残す

○勉強できる場所

- 行政も参加したまちづくりへの意見交換

○転勤族への支援

- 子どもたちが生きる社会の仕組みとなる教育の充実

○働きやすい環境づくり（若い人だけでなく、主婦や年配の方も）

○共働きしやすいまちづくり

- 北欧のような子育て世帯への施策

○若者が住みやすいと思うようなまちづくり

- 刺激
- 祭り

○観光の振興

- 道路の整備

○商業・商店街の活性化

○情報発信

○人口問題への対策（15歳～24歳を留まらせる）

【これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと】

市民意識の醸成

（住民主体のまちづくり）

【要旨】市民意識を醸成することは全ての根元になる。住民が「こうしよう」と考え、行政が支える住民主体のまちづくりが重要で、それが住みやすさにつながっていく。また、これからのまちづくりを担っていく若者の声を吸い上げることも大切であり、行政は積極的に情報を公開すべき。



各グループの発表まとめ

【Aグループ】

グループ名 A

これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと

☆ 色々な世代が集まる場

快速空間 複合化 雑貨

市民(特に中高生) 民間 主導で発信

バックアップ 行政

楽しく 買い物・飲食・勉強 遊べる・しゃべる

ナイトライフの充実(ネットい) 遊べる

【Dグループ】

グループ名 Dグループ

これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと

☆ 新都心軸を活かすまちづくり

- ・ 100mを単位にまちづくり (AR)
- ・ 多様なコミュニティの場づくり (コミュニティ)
- ・ 住民参加によるまちづくり
- ・ 多様な核(城、川、駅)づくり (AR 駅前+川)

【Bグループ】

グループ名 Bグループ

これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと

☆ 子育て支援

地域への愛着

- ・ 地域コミュニティの連携
- ・ 企業との連携
- ・ 高齢者の活やくの場として子育ての支援と結びつける。
- ・ 子どもたちの遊ぶ場として合併前の庁舎などを活用 町長室とか!!

【Eグループ】

グループ名 Eグループ

これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと

☆ 観光のまちづくり

- ・ 中心街地 駅前を核
- ・ 自然・有効活用 (森林公園)
- ・ 核となる二軸地がある。津の行政は不足している。

【Cグループ】

グループ名 C

これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと

☆ 高齢者 × 子ども = おせっかい

おじいちゃん・おばあちゃんか 子どもと見守る。

おせっかい 見守る化

おせっかい 見守る化

【Fグループ】

グループ名 F

これからのまちづくりで最も力を入れるべきこと

☆ 市民意識の醸成 住民主体のまちづくり

行政はそれに応えバックアップ

住みやすいまち、地域コミュニティ

若者が生きる 住民協働